

2010年度採択 研究推進プログラム「科研費連動型」研究成果報告書

研究代表者	所属機関・職名：情報理工学部 教授 氏名：仲谷善雄
研究課題	偶発性を促進する観光ナビゲーションシステムの研究

・研究計画の概要

研究の計画について、平成 22 年度科学研究費補助金申請時の計画概要を記入してください。

散策型の観光では、目的地までのプロセスの楽しさが重視される。そこでは、ガイドブックに載っていない店を発見したり、迷路のような路地を試行錯誤的に抜けることでワクワク感を感じるなどの、発見的な観光にさまざまな要素が重要である。その点で、現在地と目的地の間の最適ルートを提案する既存の観光ナビは適さない。

そこで本研究では、「不便益」の概念に基づいて、あえて詳細なルート情報を提供しないことで、周囲を探索する行動を誘発し、ルートや観光スポットの偶然による発見を促すことを考える。2007 年度より取り組んできた研究では、目的地までの概略的な方向性と現在地を示すだけで、詳細な地図を示さないシステムや、ユーザの周囲の半径 100m の地域の地図を隠蔽するシステム、および航空写真とランドマークの写真だけでオリエンテーリングのように誘導するシステムを開発してきた。その結果、情報を部分的に隠ぺいしたり、分かりにくくすることで、周囲の環境との相互作用を促進してユーザの積極的な探索行動を生み、散策的観光を楽しめたことがわかった。

2010 年度はこれらの成果を受け、道路は目の前にあるので、ランドマーク情報だけを提供するシステム、観光誘導機能をシステムに付与し、観光地へのリピータを増やすために、「面白そうな対象を見逃した」などの「くやしい」という心理を促すことで再度の訪問を誘導するシステム、を開発する。

・研究成果の概要

研究成果について、概要を記入してください。

【道路情報を提供しない観光ナビシステム】

本研究では、出発地と目的地、ランドマーク（目印）だけを表示した「見えない地図」を iPhone 上に試作した。ランドマークとして建物、橋などの分かりやすいものや、見つけにくい風景などを用意した。また、ランドマークには写真情報を付加し、風景中に写真に撮影された対象を探すことで、周囲との相互作用を促進することを狙った。さらに、進行方向とは逆方向から見た写真を用いることで、ゲーム性を高めた。途中で見つけた興味深い対象を GPS データとともに写真に残す機能を設け、後日、観光の軌跡を振り返って楽しめるようにした。京都市内で評価実験を行った結果、ランドマークの写真を探すためにユーザの視線が上がり、そのことが「偶然」との出会いを誘発すること、従来の観光よりも道中を楽しむことができることがわかった。

【くやしさを利用したリピータ誘発システム】

観光客に「もう一度来よう」と思わせるには、観光地での経験がよかったから、魅力的な観光スポットやイベントを見逃したから、の 2 種類がある。後者は、見逃して「くやしい」という感情に基づく。くやしきによる再訪問要求は、心理学的には「ツァイガルニク効果」と呼ばれる心理に基づく。本研究では、観光客に地図と写真を提示して、写真の風景を実際の風景の中に探すことでオリエンテーリングのように観光地に誘導するシステムにおいて、その人が興味を持ちそうな場所やイベントなどを、あえて時期（日や季節など）を少しだけずらせた写真や情報を提供することで、その時期に再訪問したいという気持ちを誘発することを考えた。さらに目的地に到着した後に、途中の経路沿いに魅力的な観光スポットがあったことを明らかにすることにより、「戻って見たいが時間が無い」という「未完了の観光」を創出する。iPhone 上にプロトタイプシステムを構築して、協力者による評価実験を行った結果、本システムが利用者にくやしさをあたえ、再訪問の気持ちを惹起させることが確認できた。